

領 域	専門基礎分野	開講時期	2 年前期
科 目 名	疾病論V	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	① 緒方優子 (別府医療センター・血液内科医長) ② 鳥越雅隆 (別府医療センター・リウマチ科医長) ③ 木村大作 (別府医療センター・リウマチ科医師) ④ 清崎邦洋 (別府医療センター・眼科医長) ⑤ 安部伸幸 (別府医療センター・耳鼻咽喉科医長) ⑥ 甲斐宣貴 (別府医療センター・皮膚科医長) ⑦ 小野敬一郎 (別府医療センター・歯科口腔外科医長)		
<科目目標> 血液・造血器、アレルギー、膠原病、感覚器、口腔・歯の疾病について病態・検査・治療を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～5	1. 血液・造血器 1) 主な疾患 (1) 赤血球系の異常 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、二次性貧血 (2) 白血球系の異常 無顆粒球症、伝染性単核球症 (3) 造血器腫瘍 急性白血病、骨髄異形成症候群、慢性骨髄性白血病、骨髄増殖性腫瘍、慢性リンパ性白血病、成人T細胞白血病リンパ腫、悪性リンパ腫、骨髄腫および類縁疾患 (4) 出血性疾患 アレルギー性紫斑病、特発性血小板減少性紫斑病、血友病、播種性血管内凝固症候群 2) 主な症状 (1) 貧血 (2) 白血球増加症・減少症 (3) リンパ節腫脹・脾腫 (4) 出血傾向 3) 主な検査 (1) 末梢血検査 (2) 骨髄穿刺・生検 (3) リンパ節生検 4) 主な治療・処置 (1) 輸血療法 (2) 化学療法 (3) 造血幹細胞移植 (4) 分化誘導療法 (5) 分子標的療法 (6) 血液疾患に対する遺伝子治療 (7) 血液疾患に合併する感染症とその対策	講義	①
6	2. アレルギー 1) 免疫の仕組みとアレルギー (1) アレルギーのしくみ (2) アレルギー反応の分類 (3) アレルゲンの種類 (4) アレルギーの経過 2) 主な症状と疾患 (1) 花粉症(アレルギー性鼻炎) (2) 蕁麻疹 (3) 接触皮膚炎 (4) アナフィラキシー (5) アトピー性皮膚炎 (6) 薬物アレルギー、ラテックスアレルギー (7) ペット・昆虫アレルギー (8) 化学物質過敏症 3) 主な検査 (1) IgE (2) アレルゲンテスト	講義	②③

	<p>4) 主な治療・処置 (1) 薬物療法(免疫抑制剤、ステロイド療法) (2) 減感作療法</p>		
7・8	<p>3. 自己免疫疾患 1) 主な疾患 (1) 関節リウマチ (2) 全身性エリテマトーデス (3) シェーグレン症候群 (4) ベーチェット病 2) 主な症状 (1) 関節痛・関節炎 (2) 皮疹 (3) 筋力低下 (4) 血管炎 (5) レイノー現象 3) 主な検査 (1) 免疫学的検査 4) 主な治療・処置 (1) 薬物療法(ステロイド薬、免疫抑制剤、抗リウマチ薬)</p>		②③
9・10	<p>4-1. 感覚器(眼) 1) 主な疾患 (1) 機能の障害 (2) 眼瞼の疾患 (3) 結膜の疾患 (4) 涙器の疾患 (5) 角膜の疾患 (6) 強膜の疾患 (7) ぶどう膜の疾患 (8) 網膜・硝子体の疾患 (9) 水晶体の疾患 (10) 緑内障 (11) 眼球・眼窩の疾患 (12) 視神経・視路の疾患 2) 主な症状 (1) 視機能に関連した症状 (2) 視機能に関連しない症状 3) 主な検査 (1) 眼底検査 (2) 視力、視野、眼球運動の検査 4) 主な治療 (1) 点眼 (2) 眼底光凝固療法 (3) 手術(白内障、緑内障、角膜移植、網膜剥離治療)</p>	講義	④
11・12	<p>4-2. 感覚器(耳鼻咽喉) 1) 主な疾患 (1) 聴力障害の疾患 (2) 副鼻腔炎 (3) 咽頭がん (4) 喉頭がん 2) 主な症状 (1) 耳(聴力の障害、メニエール病) (2) 鼻(鼻出血、嗅覚障害) (3) 咽頭(咽頭痛、呼吸障害、嚥下障害) (4) 喉頭(音声) 3) 主な検査 (1) 聴力検査(オーディオメーター検査) (2) 平衡感覚検査 (3) 鼻腔内視鏡検査 4) 主な治療 (1) 耳の処置 (2) 鼻の処置 (3) 咽喉頭の処置 (4) 手術(鼓室形成術、副鼻腔手術、喉頭の手術)</p>	講義	⑤
13・14	<p>4-4 感覚器(皮膚) 1) 主な疾患 (1) 湿疹・皮膚炎群 (湿疹、アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、光線過敏症) (2) 蕁麻疹 (3) 薬疹 (4) 脈管系異常の皮膚炎群(血管炎: IgA 血管炎、皮膚白血球破碎性血管炎 血行障害: 閉塞性血栓性血管炎、閉塞性動脈硬化症) (5) 褥瘡 (6) 褥瘡</p>	講義	⑥

	<p>(7) 皮膚感染症(帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎、白癬、カンジダ症等)</p> <p>(8) 腫瘍(色素性母斑、ケロイド、有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫)</p> <p>2) 主な症状 (1) 発疹(原発疹、続発疹) (2) 痒痒</p> <p>3) 主な検査</p> <p>(1) 皮膚科的検査法(免疫・アレルギー検査、光線過敏性検査等)</p> <p>(2) 病原微生物検査法(細菌検査、真菌検査、ウイルス検査等)</p> <p>(3) 病理組織検査法</p> <p>4) 主な治療・処置</p> <p>(1) 内服療法 (2) 外用療法</p> <p>(3) 手術療法(縫縮術、植皮術、デブリドマン)</p> <p>(4) 光線療法 (5) レーザー療法</p>		
15	<p>4-3. 感覚器(歯・口腔)</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1) 齲蝕および歯髄疾患 (2) 歯周組織疾患</p> <p>(3) 腫瘍(舌癌)</p> <p>2) 主な症状</p> <p>(1) 口腔症状(疼痛、腫脹、口腔出血、歯の欠損、口臭等)</p> <p>(2) 顎口腔機能障害(開口障害、咀嚼・嚥下障害、味覚障害等)</p> <p>3) 主な検査・治療・処置</p> <p>(1) 味覚検査 (2) 嚥下機能検査 (3) 画像検査</p> <p>(4) 齲蝕治療(プラークコントロール) (5) 歯周疾患治療</p> <p>(6) 口腔外科外来治療(補綴治療)</p> <p>(7) 口腔外科入院治療(悪性腫瘍切除)</p> <p>(8) 矯正歯科治療</p>	講義	⑦
<p>授業の進め方</p> <p>解剖学、生理学、病理学をふまえ、視聴覚教材等を用いて講義を進める。</p>			
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器(医学書院): ①</p> <p>2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症(医学書院): ②③</p> <p>3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13] 眼(医学書院): ④</p> <p>4. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉(医学書院): ⑤</p> <p>5. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚(医学書院): ⑥</p> <p>6. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[15] 歯・口腔(医学書院): ⑦</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			

領 域	専門基礎分野	開講時期	2年前期～後期
科 目 名	社会福祉	単 位 数 (時間数)	2単位(45時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	井上 祥明 (別府医療センター・医療社会事業専門職)		
<p><科目目標> すべての人が人間としての尊厳を有し、価値ある存在であり、平等であることを理解する。現代の社会構造を理解し、看護専門職として支援のあり方を考える。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 生活者の健康と福祉 1) 生活の基盤と社会福祉 2) ライフスタイルと社会福祉 2. 現代の社会福祉の考え方 1) コミュニティケア 2) ノーマライゼーション 3) 支えあう社会 3. 社会保障制度の基本と社会福祉 1) 社会保障制度 (1) 社会保障の目的 (2) 社会保障の機能 (3) 日本国憲法第25条 人権、倫理 (4) 情報公開、地方分権、参加 (5) 社会保障の体系 ①社会保険：医療保険、介護保険、年金保険、雇用保険、労働者 災害補償保険 ②公的扶助：生活・教育・住宅・医療・介護・出産・生業・葬祭 ③社会福祉 ④公衆衛生および医療 (6) 社会保障の内容 ①所得保障 ②医療保障 ③社会福祉サービス (7) 社会保障給付費 (8) 社会保障制度改革 ①地域包括ケアシステム ②社会保障・税番号制度 (マイナンバー制度)	講義 演習(グループワーク)	
2・3	2) 社会福祉の法制度 (1) 社会福祉の法制度の歴史的展開 (社会福祉の理念と変遷) ①措置制度と利用契約制度 ②利用者保護の制度 (2) 社会福祉サービスの内容とサービス提供のしくみ (3) 社会福祉法と福祉6法 (4) 社会福祉の財政 (5) 社会福祉の組織と実施体制 (社会福祉行政、社会福祉協議会、社会福祉法人) (6) 社会福祉に関わる機関と機能：福祉事務所、児童相談所、更生相談所、社会福祉施設、在宅サービスの実施機関 (7) 福祉の専門職と職種(介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士)と法律(社会福祉士及び介護福祉法) (8) 社会福祉における民間活動(民生委員、児童委員、社会福祉協議会、ボランティア、NPO)	講義 演習(グループワーク)	

回	授業内容	授業方法
4・5	2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 1) 現代社会の変化 2) 社会保障・社会福祉の動向	講義 演習(グループワーク)
6～8	3. 社会保険制度の基本 1) 社会保険の理念と変遷 (1) 目的 (2) 機能 (3) 国民皆保険・皆年金 4. 医療保障 1) 医療保障制度の沿革 2) 医療保障制度の構造と体系 3) 健康保険と国民健康保険 4) 高齢者医療制度 (高齢者の医療確保に関する法律〈高齢者医療確保法〉) 5) 保険診療のしくみ (1) 診療報酬制度 6) 公費負担医療 7) 国民医療費の動向	講義 演習(グループワーク)
9・10	5. 介護保障 1) 介護保険制度の基本理念 2) 保険者、被保険者 3) 要介護・要支援認定 4) 保険給付と利用者負担 5) ケアマネジメント 6) 介護サービス 7) 介護予防	講義 演習(グループワーク)
11・12	6. 所得保障 1) 所得保障制度のしくみ 2) 年金保険制度 (1) 制度の体系 (2) 給付と費用負担 3) 社会手当 (1) 児童手当 (2) 児童扶養手当・特別児童扶養手当 (3) 障害者手当 4) 労働保険制度 (1) 雇用保険 (2) 労働者災害補償保険法	講義 演習(グループワーク)
13・14	7. 公的扶助 1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2) 生活保護制度の仕組み (1) 生活保護法(基本理念と原則、扶助の種類と内容) 3) 低所得者対策 4) 近年の動向	講義 演習(グループワーク)
15	8. 社会福祉の分野とサービス 1) 高齢者福祉(高齢者に関する法や施策) (1) 老人福祉法 (2) 高齢者虐待防止法(高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律) (3) 老人福祉計画	講義 演習(グループワーク)

回	授業内容	授業方法
16	2) 障害者福祉 (障害者 (児) に関する法や施策) (1) 障害者基本計画 (2) 障害者基本法 (3) 障害者虐待防止法 (4) 障害者総合支援法<障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律> (5) 身体障害者福祉法 (4) 知的障害者福祉法 (6) 発達障害者支援法 (7) 障害者雇用促進法<障害者の雇用の促進等に関する法律> (8) 障害者差別解消法<障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律>	講義 演習 (グループワーク)
17	3) 児童家庭福祉 (児童に関する法や施策) (1) 児童福祉法 (2) 児童虐待防止法<児童虐待の防止等に関する法律> (3) 母子及び父子並びに寡婦福祉法 (4) 次世代育成支援、少子化対策	講義 演習 (グループワーク)
18~23	9. 社会福祉、社会保障の現状と課題	講義 演習 (グループワーク)
授業の進め方 各回の教育内容に基づき、グループディスカッションを行います。ディスカッションした内容を班ごとに発表してもらいます。発表後に最近の動向や事例を含めて講義します。(事前学習としてテキストを精読しておくこと) 20~23回の講義では、医療・看護・福祉の連携について、事例をもとにグループワークにて検討し、社会福祉、社会保障の現状と課題を理解する。		
テキスト 1. 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障[3] 社会福祉 (医学書院) 2. 国民衛生の動向 2022/2023 年版 (厚生統計協会)		
評価方法 授業終了後のレポート提出 (授業最後に実施) 50 点、筆記試験 50 点、合計 100 点で評価する。		

領 域	専門基礎分野	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	関係法規 (看護関係法規)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	① 岡村武記 (別府医療センター・経営企画室長) ② 村上由紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・30年)		
<科目目標> 人々の健康を守り、看護職として職務を正しく遂行するために必要な保健・医療・福祉に関する制度や法律を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	I. 法 の 概 念、法 規 の 種 類 II. 公 衆 衛 生 ・ 衛 生 法 規 の 概 念 と 変 遷	講義	①
2～4	III. 衛 生 法 1. 医 事 法 1) 医 療 法 ① 医 療 法 の 目 的、医 療 提 供 の 理 念 ② 医 療 施 設 の 定 義 ③ 医 療 に 関 す る 適 切 な 選 択 の 支 援、医 療 安 全 の 確 保 ④ 病 院 ・ 診 療 所 ・ 助 産 所 の 開 設 及 び 管 理 な ど 2) 医 療 関 係 資 格 法 ① 医 師 法 ② 歯 科 医 師 法 ③ 薬 剤 師 法 ④ そ の 他 の 医 療 関 係 資 格 法 i 診 療 放 射 線 技 師 法 ii 臨 床 検 査 技 師 等 に 関 す る 法 律 iii 理 学 療 法 士 及 び 作 業 療 法 士 法 言 語 聴 覚 士 法 3) 保 健 衛 生 福 祉 資 格 法 ① 公 認 心 理 士 法 ② 精 神 保 健 福 祉 法 ③ 社 会 福 祉 士 及 び 介 護 福 祉 士 法 ④ 栄 養 士 法	講義	①
5～7	2. 保 健 衛 生 法 1) 保 健 衛 生 法 の 概 念、種 類 2) 地 域 保 健 法 3) 健 康 増 進 法 4) 学 校 保 健 安 全 法 5) が ん 対 策 基 本 法 6) 食 品 安 全 基 本 法 7) 食 品 衛 生 法 3. 予 防 衛 生 法 1) 感 染 症 の 予 防 及 び 感 染 症 の 患 者 に 対 す る 医 療 に 関 す る 法 律 2) 新 型 イ ン フ ル エ ン ザ 等 対 策 特 別 措 置 法 3) 予 防 接 種 法 4) 検 疫 法	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
8・9	III. 労働法と社会基盤整備 1. 労働法 1) 労働基準法 2) 労働安全衛生法 3) 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 2. 社会基盤整備 1) 男女共同参画社会基本法 2) 個人情報保護に関する法律 3) 行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（マイナンバー法）	講義	①
10	IV. 環境 1. 環境保全の基本法 2. 公害防止の法 3. 自然保護法		
11	IV. 看護と関係法規 1. 看護職と法律のかかわり 2. 保健師助産師看護師法 1) 保健師助産師看護師法の構造と附属法令	講義	②
12	2) 保健師助産師看護師法（目的、定義、免許）	講義	②
13	3) 保健師助産師看護師法（業務、研修、教育）	講義	②
14	4) 保健師助産師看護師法（義務、罰則）	講義	②
15	3. 看護職の法的責任 4. 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	②
授業の進め方 テキストや看護六法をもとに、法令の条文について、意味が理解できるように説明を加える。また、法令に関連した通知等を提示しながら授業を進める。重要なポイントや国家試験で頻出される内容については、小テストをおこないながら知識の定着を促す。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令, 医学書院：①②			
評価方法 筆記試験			

領 域	専門基礎分野	開講時期	2年前期～後期
科 目 名	公衆衛生学	単 位 数 (時間数)	2単位(45時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田吹 好美 (翔労働衛生コンサルタント事務所・産業保健師、衛生管理者・50年)		
<科目目標> 公衆衛生の基本内容、生活者の健康保持増進に関する保健活動を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 公衆衛生の概念 1) 公衆衛生の機能 2) 公衆衛生の意義、特性 3) 公衆衛生の対象 4) プライマリヘルスケア 5) ヘルスプロモーション 6) ポピュレーションアプローチ 7) ハイリスクアプローチ 8) 予防医学の分類 9) 国際的連携 WHO加盟国の役割 保健分野における国際協力	講義	
2	2. 健康と環境 1) 生態学的環境 2) 物理化学的環境 3) 社会的環境	講義	
3	3. 健康に関連した指標 1) 人口静態 2) 人口動態 3) 健康状態と受療状況 4) 人口の動向と公衆衛生	講義	
4～5	4. 生活環境の保全 1) わが国の環境保全対策 2) 地球環境 (1) 地球温暖化 (2) オゾン層の破壊 (3) アスベスト、放射性物質 (4) 水質汚染 (5) 大気汚染 (6) 土壌汚染 3) ごみ・廃棄物 (1) 一般廃棄物、産業廃棄物 (2) 市町村と企業の責任 4) 住環境 (1) バリアフリー (2) 建築物の衛生管理、シックハウス症候群、アレルギー性疾患の増加	講義	
6	5. 食と公衆衛生 1) 食品の安全 2) 食品衛生管理 (1) 食品安全確保対策 (2) 食品管理衛生管理 (3) 食生活をもたらす健康問題	講義	
7	6. 疾病の疫学と予防 1) 疫学的方法による健康の理解 (1) 健康被害と母集団 (2) 疫学的因果関係の推定 (3) 疫学調査 (4) 臨床疫学とエビデンス	講義	
8～9	2) 感染性の基本 (1) 感染症の成立要因 (2) 感染症の流行 (3) 感染症の予防 (4) 検疫体制 (5) 予防接種 (6) 院内感染と予防、感染防御 (7) 主な感染症と動向 ①結核 ②ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症	講義	

回	授業内容	授業方法
8～9	③後天性免疫不全症候群(AIDS) ④新型インフルエンザ ⑤薬剤耐性菌感染症 ⑥新型コロナ (8)感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)	講義
10～11	7. 保健活動の基盤となる法や施策 1) 地域保健 (1) 地域保健法と施策 (2) 医療法、医療計画、保健所、市町村保健センター、災害時医療 (3) 健康日本21 (4) 健康増進法	講義
12	2) 母子保健 (1) 母子保健法と施策 (2) 母子健康手帳 (3) 保健指導・訪問指導 (4) 母体保護法 (5) 健やか親子21 (6) 養育医療 (7) 児童虐待防止	講義
13	3) 精神保健 (1) 精神保健医療福祉の施策 (2) 精神障害者(児)の医療と福祉 (3) こころの健康対策、自殺対策 (4) 発達障害に関する医療と福祉	講義
14	4) 学校保健 (1) 学校保健安全法 (2) 健康診断・健康相談 (3) 感染症対応 (4) 学校環境衛生	講義
15～16	5) がん対策基本法 6) 難病支援法<難病の患者に関する医療等に関する法律> 特定疾患調査研究事業、特定疾患治療研究事業 医療費公費負担、障害者総合支援法	講義
17	7) 生活習慣病予防 (1) 主な生活習慣病の現状 (2) 栄養、運動、休息 (3) 喫煙・飲酒対策 (4) 健康教育と早期発見 (5) 循環器疾患の予防 (6) 糖尿病の予防 (7) 特定健康診査、特定保健指導	講義
18～19	8) 職場の健康管理 (1) 労働安全衛生法 (2) 職業病の予防 (3) 作業関連疾患 (4) トータル・ヘルスプロモーション (5) 作業環境管理、作業管理、健康管理 (6) ワーク・ライフ・バランス	講義
20～22	8. 保健統計 1) 国民の健康状態を知るための統計 人口動態、国民生活基礎調査、患者調査、国民栄養調査 感染症発症動向調査、食中毒統計、母体保護、統計、結核登録 2) 医療資源を知るための調査 医療施設調査、医療従事者調査 3) その他 医療費調査 4) 健康指標 (1) 国勢調査 (2) 人口動態 (3) 出生 (4) 死亡、死因 (5) 死産、周産期死亡、乳児死亡 (6) 平均余命、平均寿命、生命表 (7) 健康寿命 (8) 受療状況、有病率、罹患率	講義
23	9. これからの公衆衛生 1) 社会の変化と公衆衛生 (1) 少子高齢社会への対応 (2) 疾病構造の変化 (3) 危機管理 2) 国際化社会における公衆衛生 (1) 国際保健医療協力の推進 (2) 健康危機管理	講師

授業の進め方

本科目では、公衆衛生の概念や保健統計等を学習し、人々の健康の保持・増進に向けた保健活動について学ぶ。

テキスト

1. 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度②公衆衛生学(メヂカルフレンド社)
2. 国民衛生の動向 2023/2024 年版(厚生統計協会)

評価方法

筆記試験

領 域	専門基礎分野	開講時期	3年前期～後期
科 目 名	公衆衛生学	単 位 数 (時間数)	2単位(30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田吹 好美 (翔労働衛生コンサルタント事務所・産業保健師、衛生管理者・50年)		
<科目目標> 公衆衛生の基本内容、生活者の健康保持増進に関する保健活動を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 公衆衛生の概念 1) 公衆衛生の機能 2) 公衆衛生の意義 3) 公衆衛生の対象 4) プライマリヘルスケア 5) ヘルスプロモーションの展開 6) ポピュレーションアプローチ 7) ハイリスクアプローチ 8) 国際的連携、WHO加盟国の役割	講義	
2～4	2. 健康と環境 1) わが国の環境の現状と対策 (1) 地球環境 i. 地球温暖化 ii. オゾン層の破壊 iii. アスベスト、放射性物質 iv. 水質汚染 v. 大気汚染 vi. 土壌汚染 (2) 公害 i. 大気汚染 ii. ダイオキシン (3) ごみ・廃棄物 i. 一般廃棄物 ii. 産業廃棄物 iii. 市町村と企業の責任 (4) 住環境 i. バリアフリー ii. 建築物の衛生管理、シックハウス症候群、アレルギー性疾患の増加 (5) 食品衛生 i. 食品の安全 ii. 食品衛生管理：食品安全確保対策、食品衛生管理制度 2) 健康に及ぼす影響 (1) 環境問題からくる健康への影響 (2) 食生活がもたらす健康問題 3. 疾病の疫学と予防 1) 疫学調査 2) 感染性疾患の疫学と予防 (1) 発生状況、流行現象 (2) 予防の基本と防疫体制：感染予防対策、予防接種など (3) 最近注目される感染性疾患への取り組み：AIDS、結核、 トリインフルエンザ、SARS	講義	
5～7	4. 健康に関連した指標 1) 国勢調査 (1) 人口統計：総人口、年齢別人口、労働人口、 将来推計人口、世帯数、婚姻・家族形態 2) 人口静態 3) 人口動態 (1) 出生：出生率 (2) 死亡：死亡率、死産、周産期死亡、乳児死亡、死因の概要 4) 健康状態と受療状況 (1) 平均余命、平均寿命 (2) 健康寿命 (3) 有訴者の状況 (4) 有病率・罹患率 (5) 受療行動・受療率 (6) 入院期間 (7) 外来受診状況 5) 保健統計・指標 (1) 保健統計の意義、種類 (2) 患者調査・国民生活基礎調査・国民健康栄養調査・医療施設調査 (3) 医療費調査・医療施設調査・医療従事者調査・その他	講義	

回	授業内容	授業方法
8～14	<p>5. 保健活動</p> <p>1) 地域保健 (1) 地域保健法の理念と指針 (2) 健康日本 21 (3) 健康増進法 (4) 地域保健活動の場 i. 市町村保健センター ii. 保健所 (5) 医療法・医療計画</p> <p>2) 母子保健 (1) 母子保健法 (2) 母子健康手帳 (3) 保健指導・訪問指導 (4) 健康診査・健康教育 (5) 養育医療 (6) 健やか親子 21 (7) 児童虐待防止 (8) 母子保護法</p> <p>3) 精神保健</p> <p>4) 学校保健 (1) 学校保健安全法 (2) 健康診断・健康相談 (3) 感染予防 (4) 学校環境衛生</p> <p>5) がん対策基本法</p> <p>6) 難病支援法<難病の患者に関する医療等に関する法律> (1) 特定疾患調査研究事業 (2) 特定疾患治療研究事業 (3) 医療費公費負担</p> <p>7) 生活習慣病予防 (1) 主な生活習慣病の現状 (2) 栄養、運動、休息 (3) 喫煙・飲酒対策 (4) 健康教育と早期発見 (5) 循環器疾患の予防 (6) 糖尿病の予防 (7) 特定健康診査、特定保健指導</p> <p>8) 障害児・者対策</p> <p>9) 職場の健康管理 (1) 労働安全衛生法 (2) 健康管理・職業病の予防 (3) トータル・ヘルスプロモーション (4) 作業環境・作業環境管理 (5) ワーク・ライフ・バランス</p> <p>6. 保健活動における看護職の役割</p>	講義
15	<p>7. これからの公衆衛生</p> <p>1) 社会の変化と公衆衛生 (1) 少子高齢社会への対応 (2) 疾病構造の変化 (3) 危機管理</p> <p>2) 国際化社会における公衆衛生 (1) 国際保健医療協力の推進 (2) 健康危機管理</p>	講義
<p>授業の進め方</p> <p>本科目では、公衆衛生の概念や保健統計等を学習し、人々の健康の保持・増進に向けた保健活動について学ぶ。</p>		
<p>テキスト</p> <p>1. 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度②公衆衛生学(メヂカルフレンド社)</p> <p>2. 国民衛生の動向 2023/2024 年版(厚生統計協会)</p>		
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>		